

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第198820号
起案日	平成14年 6月21日
特許庁審査官	高橋 宣博 9374 5M00
特許出願人代理人	京本 直樹 (外 2名) 様
適用条文	第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1-16
- ・引用文献等 1, 2
- ・備考

上記引用文献1には、「【0020】 その一例として、図2は予め画面を指定文書表示画面202と関連文書一覧表示画面203に、2分割しそれぞれを表示する方法を示している。関連文書一覧表示画面203に表示されている関連文書の表示形態204~205は、所在を示すだけでなく文書本体へのリンク情報を含んでおり、アンダーライン部分にマウスを持っていきクリックすることにより関連文書の本文を閲覧することができる。」と記載されており、関連文書をクリックすることで表示することができる検索機能を有する検索用画面（関連文書一覧表示画面203）が示されている。

また、上記引用文献1には、「【0024】 330は、閲覧文書の表示画面と同じ画面上に表示するのではなく、閲覧文書と同時に新しく関連文書一覧表示用の画面331を開き、表示する方法である。」と記載されており、提示している文書と共に検索機能を有する構造化文書を出力することが示されている。

更に、上記引用文献1には、「【0030】図5は図4における関連文書一覧作成処理500の流れを示す図である。まずキーワードテーブル1000を参照して、ステップ414にて受信した文書中にキーワードテーブルに含まれるキーワードと合致するものがあるか、公知の全文検索手段にて照合し、合致したキーワードを抽出する（ステップ501）。」、「【0031】複数のキーワードを抽出した場合、それらを「and」または「or」で関係づけて検索要求を作成する。次に検索プログラムを有する検索サーバに対し、関連文書検索要求を発行する（ステップ503）。」と記載されており、読み出した文書からキーワードを抽出し、そのキーワードで関連文書を検索する技術が示されている。

ここで、引用文献1に示された、読み出した文書からキーワードを抽出し、そのキーワードで関連文書を検索し、関連文書を選択できるリンク画面を作成する技術を考えると、キーワードを抽出することは、ある意味、文書が属する分野を推定しており（例えば抽出されたキーワードがプレゼントであるとする、その文書はプレゼントに関する分野の文書であると推定できる。）、そのキーワードを用いて作成されたリンク画面は、リンクをクリックすることで、そのキーワードに関する文書が検索できることから、推定された分野を検索対象とした検索機能を提供する検索画面といえる。

そして、上記引用文献2には、文書の分野を特定する技術、文書の分野で検索する技術が示されており、引用文献1に記載された文書に関連する文書を検索するために、引用文献2に記載された文書の分野を特定する技術を適用することは当業者が容易になし得る。

引用文献等一覧

- 1.特開平10-269237号公報
- 2.文書タイプ分類による問題解決向きWWW検索システムの開発と評価,
情報処理学会研究報告 99-FI-53, 1999年 3月 1日,
Vol. 99 No. 20, p. 9-16